

9-1 ジブリパークを活用した圏域全体のプロモーションの展開

<3カ年の取組方向>

- ジブリパークの5つのエリアのうち、「青春の丘エリア」、「ジブリの大倉庫エリア」、「どんどこ森エリア」の3エリアについて、2022年秋に開業するとともに、関連する公園整備や周辺の道路整備を実施していく。また、残りの「もののけの里エリア」、「魔女の谷エリア」の2エリアについては、3エリアの開業から概ね1年後の開業をめざし、整備を進めていく。
- ジブリパークの開業に伴い、周辺の交通集中が想定される名古屋東部丘陵地域において、混雑の分散・回避や、地域住民及び来訪者の円滑かつ効率的な移動をめざし、MaaSの導入を推進していく。
- ジブリパーク来場者を同パークへの来場だけに完結させることなく、県内での宿泊や周遊に導き、その開業効果を広く県内に波及させていくため、来場者データを活用するシステムを構築し、「ジブリパークのある愛知」のPR・プロモーションなどを実施していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
ジブリパークの整備推進		○青春の丘エリア、ジブリの大倉庫エリア、どんどこ森エリアの整備 ○もののけの里エリア、魔女の谷エリアの整備	秋開業	開業	政策企画局
愛・地球博記念公園の魅力の向上	都市公園施設等の整備推進	○北エントランスの再整備、休憩所、園路、駐車場の整備	3エリア対応完成	2エリア対応完成	都市・交通局
スムーズでわかりやすい交通アクセスの確保	MaaSの社会実装の推進【再掲 8-1 (3)】	○名古屋東部丘陵地域におけるMaaSの導入に向けた実証実験の実施	○サービスの追加や見直し ○他の地域へのMaaS展開に向けた検討	連携者数：20者(2023年度)	都市・交通局
愛・地球博記念公園周辺の交通渋滞対策の推進		○交差点における左折車線の追加や右左折車線の延伸工事の実施	完了		建設局
ジブリパークの効果の波及	周辺地域の活性化	○ジブリパーク構想地域連携協議会の活動の推進			政策企画局
		○東部丘陵線連絡協議会の活動の推進 ○リニモ沿線地域づくり構想の推進 ○リニモ利用促進を図る取組の実施			都市・交通局
		○来場者のデータを活用するシステムの構築	構築完了		観光コンベンション局
	○PRデザイン動画の制作	○システム提供、広告の配信 ○旅行商品等の造成・販売促進 ○PRプロモーションの実施			

＜コラム③⑥＞ ジブリパークの整備 ～愛知万博の理念と成果の継承～

2005年に開催された愛知万博は、愛・地球博記念公園をメイン会場に「自然の叡智」をテーマとして開催され、人、いきもの、地球に対する「愛」を我々に示しました。この愛知万博の理念と成果を、愛知万博が行われたこの公園で継承していくことが愛知県の責務であると考えます。

ジブリパークで表現されるスタジオジブリの作品に通底するものの一つには、まさに、人、いきもの、地球に対する「愛」が含まれており、愛知万博の理念と合致しています。

この公園において、スタジオジブリ作品の世界観を表現した施設を更に配置することで、愛知万博の理念と成果を将来にわたって継承していきます。



【ジブリパークのイメージ「青春の丘エリア」と「ジブリの大倉庫エリア」】(©Studio Ghibli)

9-2 世界に向け創造・発信する文化芸術の振興

(1) 愛知発の文化芸術の育成・発信

<3カ年の取組方向>

- 愛知から新たな芸術を創造・発信していくため、国際芸術祭「あいち2022」を2022年7月から10月にかけて開催する。
- 文化新人賞の表彰や現代美術作品の重点的な購入、展示・発表の場の提供などを通じて、若手芸術家を育成していく。また、県立芸術大学において、美術学部デザイン・工芸科の専攻・領域を見直し、新たに、メディア映像専攻を新設するとともに、美術学部彫刻棟の整備や、海外大学等との国際交流の推進などを通して、世界に通用する芸術家の育成に取り組んでいく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
愛知発の芸術文化の発信	国際芸術祭の継続開催	○「あいち2022」の開催に向けた企画準備、広報・PRの実施 ○芸術祭関連事業（アーツ・チャレンジ）の実施	○「あいち2022」の開催	○2025年の開催に向けた準備 ○芸術祭関連事業（現代美術地域展開事業）の実施	県民文化局
	愛知芸術文化センターの活用推進	○質の高い舞台芸術や美術展の開催（4回） 入場者数：年間200万人			県民文化局
	県陶磁美術館の活用推進	○常設展、企画展等の開催（4回） ○SNSによる発信 ○陶製こま犬や現代陶芸を活かした展示の実施 ○案内表示のリニューアルの実施	○陶製こま犬関連イベントの開催 ○国際芸術祭との連携 来館者数：年間10万人		県民文化局
芸術家の育成	若手芸術家の育成支援	○愛知県芸術文化選奨の「文化新人賞」による表彰（4件）を通じた芸術家の育成支援			県民文化局
	若手アーティストへの活動の場の提供	○若手作家の現代美術作品の重点的な購入の実施 ○購入作品のコレクション展での展示の実施 ○アーティスト in 陶芸館の開催（8回） ○若手作家の現代陶芸のインсталレーション展示の実施 ○若手作家の公募展「アーツ・チャレンジ」の実施【再掲】 ○地元芸術系大学等と連携した展覧会の開催			県民文化局
	魅力ある県立芸術大学づくり	○メディア映像専攻の校舎整備 ○新彫刻棟の設計 ○海外協定校との交流の推進	メディア映像専攻の新設 ○新彫刻棟整備	竣工	県民文化局

＜コラム③＞ 国際芸術祭「あいち2022」の開催

国際芸術祭は、3年に1度、愛知県で開催する国際的な現代アートの祭典です。2022年度に開催する「あいち2022」は、愛知県出身で森美術館館長である片岡真実氏を芸術監督に迎え、7月から10月にかけて愛知芸術文化センターを始め、一宮市、常滑市、有松地区（名古屋市）などで「STILL ALIVE」をテーマに開催します。「あいち2022」では、過去、現在、未来という時間軸を往来しながら、愛知県の誇る歴史、地場産業、伝統文化の再発見、生きることの根源的な意味などを考えます。また、世界の現代美術の底流をなすコンセプチュアル・アート、文字を使った美術表現やポエトリー（詩）、現代美術とパフォーマンスアーツを横断する表現などにも光を当てます。「あいち2022」が、人生のどの一瞬にあっても、明日を生きるためのポジティブなエネルギーにつながる、心躍る出会いや体験の場になることをめざします。

（2）伝統芸能や文化財の継承・発展

＜3カ年の取組方向＞

- 愛知県民俗芸能大会の開催や、伝統文化出張講座の実施などにより民俗芸能の保存・伝承を図るとともに、あいち山車まつり日本一協議会による山車文化の魅力の発信を通じ、地域に根ざした伝統芸能の活用を推進し、地域の活性化や観光振興につなげていく。
- 文化財の継承・発展のため、国・県指定文化財の保存・修理や管理の支援、重要文化財に指定された愛知県庁本庁舎の保存活用計画に基づく、適切な保全や公開イベントの実施などの利活用を行っていく。また、東海地方最大規模の弥生集落の遺跡であるあいち朝日遺跡ミュージアムにおける企画展の開催や史跡断夫山古墳発掘調査を行っていく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
伝統芸能の継承・発展	伝統芸能の保存、継承	○愛知県民俗芸能大会の開催 ○伝統文化出張講座（5校、各校3日）	→	→	県民文化局
	あいち山車まつり日本一協議会による山車文化の魅力の発信	○総会・研修会、シンポジウムの開催 ○山車祭礼関係芸能や保存団体の活動等の動画配信 ○あいち山車文化魅力発見講座の実施（3回） ○クラウドファンディング活用サポートの実施 ○Webページによる情報発信	→	→	県民文化局
文化財の継承・発展	文化財の保全	○指定文化財の保存修理や管理の支援（59件） ○文化財レスキュー台帳の整備	→	→	県民文化局
		○本庁舎の銅板屋根の全面葺き替え等の実施	→	→	総務局
	文化財の魅力発信	○本庁舎公開イベントの実施 ○あいち朝日遺跡ミュージアムの運営、企画展（年4回）の開催 ○史跡断夫山古墳の発掘調査の実施	→	→	総務局 県民文化局
				○報告書の作成	

9-3 アジア競技大会始め国内外から注目されるスポーツ大会の開催

(1) アジア競技大会の開催とレガシーの活用

<3カ年の取組方向>

- 2026年のアジア競技大会の開催に向け、競技や輸送を始めとした各運営分野の検討など、開催準備を進めるとともに、関係者と連携し県内外のイベント等を活用しながらPRを行うなど、開催気運を高めていく。
- 小中学生を中心にスポーツ能力の高い子どもたちを発掘し、トップアスリートに育成することをめざす、あいちトップアスリートアカデミーを各競技団体等と連携して開催するとともに、アジア競技大会等での活躍が期待される本県ゆかりの選手の競技力を高めるための支援を行っていく。
- アジア競技大会の選手村が大会後もレガシーとして有効活用されるよう、後利用事業の協議・調整を行うとともに、後利用を踏まえた都市基盤を整備していく。
- アジア競技大会の開催を契機として、アジア各国を対象としたインバウンド観光の振興や、来訪者の利便性向上に向け、受入れ環境の整備に取り組むとともに、海外地域とのMOUに基づき、アジア諸国との経済交流を深めていく。また、次期「愛知県スポーツ推進計画」の策定や総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度を整備し、スポーツクラブを育成するなど、スポーツの振興に向けた取組を進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
アジア競技大会の開催	アジア競技大会の開催準備	○大会の各運営分野の検討 ○大会の広報、PRの実施 ○選手村の計画の策定		2026年開催	スポーツ局
	トップアスリートの発掘、育成、強化	○あいちトップアスリートアカデミーの開催（130人） ○アジア競技大会等選手強化の支援（180人）			スポーツ局
地域のスポーツ振興	次期「愛知県スポーツ推進計画」の策定	○県民への意識調査など、次期「愛知県スポーツ推進計画」の策定に向けた検討の実施	○次期計画の策定	○次期計画の推進	スポーツ局
	総合型地域スポーツクラブの創設・育成	○総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度整備	○登録推進及び登録クラブの育成		スポーツ局
アジア大会の活用推進	アジア圏からの観光客誘致の推進【再掲 9-5(1)】	○FIT向け観光プロモーションの実施（4か国） ○OTAとの連携 ○ムスリム系メディアの招請 ○多言語パンフレットの作成・配布			観光コンベンション局
	アジア経済連携の推進【再掲 7-3(1)】	○サポートデスクの運営（ベトナム、中国、インド、インドネシア） ○海外産業情報センターの運営（上海、バンコク） ○MOUに基づく連携の推進（タイ、インドネシア、ベトナム、江蘇省、山東省）	海外産業情報センター・サポートデスクにおける相談件数：年間410件（～2025年度）	国内外における経済交流事業の実施件数：70件（2025年度）	経済産業局

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
アジア競技大会のレガシーの活用	周辺地域と連携したまちづくり	○選手村後利用事業の検討 ○選手村後利用の契約候補事業者の決定	○後利用の都市基盤施設の整備		スポーツ局

（２）愛知県新体育館の整備と国際的なスポーツ大会の招致・育成

＜3カ年の取組方向＞

- 愛知県新体育館の2025年夏のオープンに向け、BT コンセプション方式を導入し整備していく。
- スポーツ大会に関する情報発信や、県内市町村等と連携したスポーツ大会・合宿の招致を行うとともに、マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知やF I A世界ラリー選手権ラリージャパンなどのスポーツ大会の開催を支援するなど、あいちスポーツコミッションにより全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成を図っていく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
愛知県新体育館の整備推進		○BTコンセプションによる整備・特定事業契約締結、設計 ○建設予定地の整備等の実施（既存施設の取壊し、交通量調査等）	・設計、建設 ○公の施設に係る設置管理条例の制定	・建設 2025年夏オープン	スポーツ局
スポーツ大会を通じた地域の活性化	あいちスポーツコミッションによるスポーツ大会の招致育成	○ホームページやSNSによるスポーツ大会に関する情報発信 Web サイトアクセス件数：130,500件/年 ○スポーツ大会・合宿の招致 ○スポーツ大会の開催気運の醸成、地域の魅力発信 ○マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知の開催 ○F I A世界ラリー選手権ラリージャパンの開催支援		○ラリーを活用した地域活性化の推進	スポーツ局

【愛知県新体育館イメージ図】



＜新体育館の概要＞

建築面積：26,700㎡
延床面積：58,400㎡
最高高さ：41.0m
最大収容人数：17,000人
（立見含む）

新体育館の主な施設構成：

スポーツの国際大会や大規模なコンサートが開催可能なメインアリーナを始め、サブアリーナ、多目的ホールなどで構成

9-4 愛知ならではの観光の推進

＜3カ年の取組方向＞

- 愛知ならではの「ツウ」な魅力を感動レベルの体験コンテンツまで磨き上げ、ターゲットに合わせて販売するとともに、歴史・ものづくり・伝統文化・自然・食といった本県の資源を、ひとつのストーリーとしてPRしていくなど、「あいち『ツウ』リズム」の普及を図っていく。
- 全国の武将・忍者が集結する集客イベントを開催するとともに、産業観光あないびとの育成や修学旅行を誘致していくなど、国内外からの誘客を図っていく。また、お城観光や街道観光のPR、食に関する観光の推進や、なごやめしやポップカルチャーの情報発信などに取り組んでいく。
- ナイト観光を検討する観光事業者等向けの商品化支援を行うなど、多様化する旅行・宿泊ニーズに対応していく。
- 観光客のニーズを的確に捉えることを目的としたデジタルマーケティングリサーチを実施し、データに基づいた効果的・効率的な観光のPRを実施していく。また、愛知観光プラットフォームを活用した観光事業者や交通事業者と連携した旅行商品の造成・販売などを行っていく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
愛知ならではの の魅力を創出	あいち「ツウ」リズムの推進	○テーマ毎にターゲットプロフィールを設定するためのインターネット調査や面接調査の実施（3テーマ） ○ターゲットのニーズを踏まえた旅行商品の造成、販売の実施（9商品）	→		観光コンベンション局
	武将観光の推進	○サムライ・ニンジャフェスティバルの開催 ○徳川家康と服部半蔵忍者隊によるPRの実施 ○名古屋おもてなし武将隊等の県外イベントへの派遣	→	→	観光コンベンション局
	お城観光の推進	○お城EXPOへの出展、PRの実施 ○にっぽん城まつりの開催 ○お城観光パンフレットの作成（4万部）	→	○お城観光の推進	観光コンベンション局
	街道観光の推進	○PRポスターの制作 ○TV旅番組を活用したPRの実施 ○東海道シンポジウムの開催	○街道観光パンフレットの制作	○街道観光の推進	観光コンベンション局
	産業観光の推進	○産業観光あないびとの育成 ○修学旅行の誘致 ○岐阜県と連携した観光スタンプラリーの開催	→	→	観光コンベンション局
		○あいち航空ミュージアムの運営	→		都市・交通局
	食に関する観光の推進	○あいちの農林水産フェアの開催 ○食と花の街道の認定	→	→	農業水産局
	なごやめしの普及促進	○イベントへの出展 ○PR・情報発信の実施	→	→	観光コンベンション局
	ポップカルチャーの情報発信	○世界コスプレサミット開催支援 ○ポップカルチャーイベント開催支援	○情報発信の推進	→	観光コンベンション局

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
愛知ならではの魅力の創出	ジブリパークを起点とした周遊観光の促進【再掲 9-1】	○来場者のデータを活用するシステムの構築	構築完了		観光コンベンション局
		○PRデザイン・動画の制作	○システム提供、広告の配信 ○旅行商品等の造成・販売促進 ○PRプロモーションの実施		
愛知ならではの魅力の発信		○広報誌「あいちのトビラ」による県の魅力の発信（日本語版、英語版、中国語版）			政策企画局
受入れ環境の整備・充実	多様化する旅行・宿泊ニーズへの対応	○ナイト観光プログラムの商品化や販売の支援（最大11商品）	○ナイト観光の普及促進		観光コンベンション局
観光PRの推進	デジタルマーケティングによる効果的なPR	○マーケティングリサーチの実施 ○広報動画の配信、効果分析			観光コンベンション局
	愛知観光プラットフォームの推進	○商談会、観光展の開催 ○交通事業者と連携した旅行商品の造成、販売			観光コンベンション局
	フィルムコミッションの活動支援	○フィルムコミッション協会を通じたロケハンの誘致 ○ロケ地等の情報発信			観光コンベンション局

＜コラム⑧＞ 新しい生活様式・新しい旅行スタイルへの対応

新型コロナウイルス感染症の治療薬やワクチンの開発・普及により、感染リスクに対する不安が払拭されるまでは、感染症の存在を前提として、感染拡大防止と観光振興の両立を図っていく必要があります。

本県においては、観光関連事業者に対し、業種ごとの「感染拡大予防ガイドライン」及び県が作成した「感染防止対策リスト」を活用した、徹底した感染防止対策を呼びかけるとともに、旅行者に対しても、「新しい生活様式」における、安全で楽しい旅行のための「新しい旅のエチケット」の普及・啓発に努めていきます。

一方、新型コロナウイルス感染症が収束した後の観光振興の在り方については、人々の働き方、ライフスタイルや観光に対する意識がどう変化し、観光のニーズにどのような影響を与えるのか、また、それに応じて、観光関連事業者が提供するサービス等の内容がどのように変化していくのかを見極める必要があります。

観光の再生に向けて、本県独自の魅力・強みを強化する、「あいち『ツウ』リズム」を推進し、観光コンテンツの付加価値を高め、観光消費を喚起していきます。

9-5 観光交流拠点としての機能強化、人材育成

(1) 訪日外国人旅行者の受入れ促進・受入れ環境の整備、広域観光の推進

<3カ年の取組方向>

- 外国人旅行者の誘客のため、観光PR用のキャッチワード・ロゴマーク「“Heart” of JAPAN ~Technology & Tradition」を掲げ、ウェブ・SNSを活用した情報発信や、インフルエンサー、メディア等によるプロモーション等を実施していく。
- インバウンド向けPR動画の制作・配信等により、個人旅行（FIT）向けの情報発信に取り組むとともに、海外6か国に現地事情に精通した事業者を観光レップとして設置し、現地メディアや旅行会社向けの継続的なプロモーションを実施していく。
- 新型コロナウイルス感染症収束のタイミングを見据えつつ、中国を始めとするアジア圏の国々からの外国人旅行者の誘客に向け、各国の状況に応じたFIT向け観光プロモーションを実施するとともに、ムスリムの旅行者への情報発信やパンフレットの配布などに取り組んでいく。
- 外国人旅行者の快適な滞在環境を実現し誘客につなげるため、高級ホテルの立地や多言語コールセンターの運営、外国人旅行者向け無料公衆無線LAN接続簡易アプリの配信など受入れ環境を整備していく。
- 広域連携により効果的に本県の魅力についての情報発信を行うため、(一社)中央日本総合観光機構や東海地区外国人観光客誘致促進協議会に参画し、外国人旅行者の誘客に取り組んでいく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
訪日外国人旅行者の受入れ促進	ハートオブジャパン誘客の促進	○インフルエンサー、メディアによるプロモーションの実施 ○クルーズ船誘致促進 ○ウェブ、SNSによる情報発信	○海外プロモーションの実施		観光コンベンション局
	情報発信の強化	○観光情報サイトへの観光施設等の情報登録支援 ○インバウンド向けPR動画制作	○情報発信の推進		観光コンベンション局
	観光レップの活用推進	○観光レップによる誘客活動の実施（6か国）			観光コンベンション局
	ナイト観光の促進【再掲9-4】	○ナイト観光プログラムの商品化や販売の支援（最大11商品）	○ナイト観光の普及促進		観光コンベンション局
	アジア観光客誘致の促進	○FIT向け観光プロモーションの実施（4か国） ○OTAとの連携 ○ムスリム系メディアの招請 ○多言語パンフレットの作成・配布			観光コンベンション局
訪日外国人受入れ環境の整備	高級ホテルの立地促進【再掲8-1(6)】	○高級ホテルの立地促進 ○補助制度のPR			観光コンベンション局
	多言語化の促進	○多言語コールセンターの運営（9か国語対応） ○多言語デジタルマップの構築 ○受入れ環境整備に関するセミナーの実施	○多言語化の促進		観光コンベンション局

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
訪日外国人受入れ環境の整備	無料公衆無線LANの普及促進	○外国人旅行者向け無料公衆無線LAN接続簡易化アプリ「Aichi Free Wi-Fi Connect」の配信	○無料公衆無線LANの普及促進	→	観光コンベンション局
広域観光の推進	（一社）中央日本総合観光機構等と連携した取組の推進	○昇龍道プロジェクトへの更なる誘客の促進		→	観光コンベンション局
	東海地区外国人観光客誘致促進協議会と連携した取組の推進	○地域の観光資源を活用したプロモーション等による誘客の推進		→	観光コンベンション局

（２）人材育成、観光イノベーションの創出

＜３カ年の取組方向＞

- 観光まちづくりアワードの表彰やフォーラムの開催により、大学や専門学校、高校及びその学生・生徒を巻き込んで観光を盛り上げ、次代の観光振興を担うキーパーソンを育成するとともに、これらの人材の交流により新たなイノベーションを創り出していく。
- 観光コンテンツの高付加価値化を図るため「あいち『ツウ』リズム」の普及を図っていく。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域の観光関連産業に対し、需要喚起面での支援を実施し、観光関連産業の経営を持続可能な安定軌道に乗せていく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
人材育成、観光イノベーションの創出	人材育成、観光イノベーションの創出	○観光まちづくりアワードの実施 ○あいち観光まちづくりフォーラムの開催	→	→	観光コンベンション局
	観光コンテンツの高付加価値化の推進【再掲9-4】	○テーマ毎にターゲットプロフィールの設定するためのインターネット調査や面接調査の実施（3テーマ） ○ターゲットのニーズを踏まえた旅行商品の造成、販売の実施（9商品）	→	→	観光コンベンション局
持続可能な観光の定着促進	新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした旅行スタイルの変化への対応	○県内観光事業者等を対象とした感染症対策セミナーの開催（4回） ○観光施設等の感染症対策の先進事例や「新しい旅のエチケット」に関する情報の提供			観光コンベンション局
	県民による県内観光の促進	○本県及び近隣県の県民の県内宿泊に対する助成 ○主に県民を対象とした県内旅行に対する助成	○県民による県内観光の促進	→	観光コンベンション局

9-6 居住地として選ばれる魅力の創造・発信

(1) 「愛知の住みやすさ」の向上と効果的な発信

<3カ年の取組方向>

- 愛知が持っている「住みやすさ」を更に向上させるため、先端技術を活用したまちづくりを推進していくとともに、市街地再開発などのまちづくりへの支援を通じて商業施設の立地促進や、公共的観光施設の設置及び改修等の支援、さらには、スポーツやライブイベントの開催を促進するなどして、更なる魅力を創出していく。
- 東京圏等の若者層への愛知の住みやすさの発信に加え、東京と名古屋に設置した、あいちUIJターン支援センターにおいてUIJターン希望者の積極的な掘り起こしや個別相談に応じるとともに、県内中小企業等の求人情報を提供するマッチングサイトの運営を行うなど、本県への就職・転入を促していく。
- あいちテレワークサポートセンター等による導入支援により、テレワークの普及を促進していくとともに、半農半Xを志向する人への支援を行うなど、新しいライフスタイルを踏まえながら、人口流入・定着を促進していく。
- 県政150周年を迎えるにあたり、記念事業や式典を実施することで、150年の歩みを学び、地域の文化・歴史・風土・産業などを県民が再発見する契機とするとともに、「杉原千畝広場 センボ・スギハラ・メモリアル」やあいち・なごやノーベル賞受賞者記念室を活用して、愛知県ゆかりの偉人の業績・功績を伝えることで、県民の郷土への愛着や誇り（シビックプライド）を醸成していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
魅力の創出	魅力ある観光・商業施設等の立地促進	○公共的観光施設の設置・改修の支援	→	→	観光コンベンション局
		○まちづくりの支援【再掲8-3(1)】	→	→	建築局
	歴史まちづくりの推進	○市町村や地域活動団体への支援	→	→	都市・交通局
	先端技術を活用したまちづくり	○次世代通信環境の普及促進【再掲8-3(1)】	→	→	総務局
	スポーツ・ライブイベントの開催の促進	○Aichi Sky Expoを最大限に活用した誘致活動の支援【再掲7-1(1)】 ○「Aichi Sky Expo 活性化推進機構」を通じた新たな展示会需要の創造【再掲7-1(1)】	→	→	観光コンベンション局
○あいちスポーツコミッションによるスポーツ大会の招致育成【再掲9-3(2)】		→	→	スポーツ局	
人口流入・定着の促進	愛知の住みやすさの発信	○若年層向け動画の制作や学生向け民間情報サイト等への広告記事の掲載 ○インフルエンサーを活用したSNSでの魅力発信 ○パンフレットやWebでのPRの実施	→	→	政策企画局
	UIJターンの促進	○あいちUIJターン支援センターでの希望者の掘り起こし、相談の実施 ○企業向けセミナー、PR・広報の実施	→	→	労働局

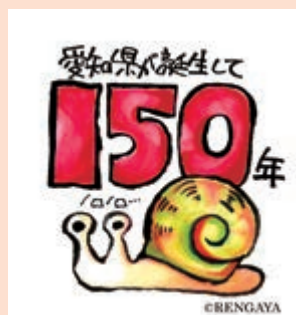
取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
人口流入・定着の促進	首都圏からの人材確保の促進	○マッチングサイトによる求人情報の提供 ○移住支援金の支給			労働局
	テレワークの普及促進【再掲 5-1(1)】	○テレワークに関する相談、機器操作体験、情報提供等をワンストップで実施するサポートセンターの設置 ○経営者及び実務担当者向けテレワーク・スクールの開催（計6回） ○導入企業等の取組事例動画の作成 ○ポータルサイトの制作・運営 ○中小企業等へのアドバイザー派遣（120回）、出張相談会の実施 ○サテライトオフィスの活用状況調査・事例紹介及び見学・体験会の開催（3回） ○テレワーク体験などを行うモデルオフィスの設置		中小企業のテレワーク導入率：30%（2023年度）	労働局
	農村地域への人口流入・定着の促進	○半農半Xに関する調査研究及び情報発信	○半農半X志向者向けセミナーや移住相談会の開催	○現地見学、就業支援や市町村と連携した移住定住の促進 新規就農者：200人	農業水産局
シビックプライドの醸成	県政150周年の周知・気運の醸成	○県政150周年記念推進本部の開催 ○記念式典の準備 ○県政150周年記念事業の選定 ○ホームページなどによるPRの実施	○記念式典開催 ○記念事業の実施		政策企画局
	愛知県ゆかりの偉人の業績・功績の周知	○「杉原千畝広場 センポ・スギハラ・メモリアル」による周知 ○あいち・なごやノーベル賞受賞者記念室の運営・活用【再掲2-1(2)】			教育委員会 経済産業局

<コラム③⑨> 県政150周年について

1872（明治5）年11月27日に、名古屋県から改称した当時の愛知県と額田県が合併して現在の愛知県が誕生しました。2022年11月27日が県政150年の節目に当たります。

本県では、県政150周年を様々な機会にPRしていくため、県政150周年記念のシンボルとなるロゴマークをスタジオジブリプロデューサーである鈴木敏夫氏に作成いただきました。2021年5月から、このロゴマークのキャラクターの名称を募集したところ、2,582件の応募があり、その中から、かたつむりは、「いこまいまい」、鳥は、「あいちゅん」と決定しました。

このロゴマークの活用や記念事業の実施を通じて、愛知県150周年を広くPRし、県民の皆様が地域の文化・歴史・風土、産業などを再発見することで、郷土への愛着や誇りを持ち、将来も愛知県に住み続け、愛知をより良くしていきたいと思っております。



いこまいまい



あいちゅん

(2) 県営公園等の魅力向上と利活用促進

<3カ年の取組方向>

- 県営公園等の魅力向上と利活用を促進するため、小幡緑地におけるPark-PFIを活用して施設整備・運営を進めるとともに、大高緑地等において民間活力の導入に向けた調査を進めていく。また、森林公園において、第70回全国植樹祭の理念を活かした利活用事業を、民間活力の導入などにより実施するとともに、緑化センター・昭和の森においても、魅力あるサービスを提供するために民間活力を導入していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
県営公園等の 魅力向上と利 活用促進	都市公園における民間活力の導入	○大高緑地等における民間活力の導入調査の実施 ○小幡緑地におけるPark-PFIを活用した施設整備・運営 施設の開業	○民間による施設の運営		都市・交通局
	森林公園における利活用の促進	○民間活力導入などによる、第70回全国植樹祭の理念を活かした利活用事業の実施			農林基盤局
	緑化センター・昭和の森における利活用の促進	○民間活力の導入などに向けた取組の実施			農林基盤局

(3) 県内大学の活性化と魅力発信

<3カ年の取組方向>

- 県内大学の魅力を向上させるため、県内産業の維持・発展に不可欠なICT人材の育成・確保を図る、大学生のハッカソンを開催するとともに、企業と連携した課題解決型学習（PBL）の実施を促進していく。
- 世界トップレベルの大学と県内大学との学生交流や学術・技術交流等を促進していくとともに、大学ポータルサイトなどを通じて県内大学の魅力を発信していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等
		2021	2022	2023	
県内大学の魅力向上	地元産業界との連携推進【再掲 6-4(1)】	○大学生のハッカソンの開催 ○企業と連携した課題解決型学習（PBL）の実施促進			政策企画局
	行政との連携推進	○大学との連携事業推進			政策企画局
	海外大学との交流の促進【再掲 7-5(1)】	○海外大学との覚書を活用した学生交流、学術・芸術交流の促進 ○アジア大学サミットを活用した連携促進			政策企画局
	魅力の発信	○大学ポータルサイトによる情報発信			政策企画局

(4) 山間地域、離島における関係人口の創出・拡大、移住・定住の促進

＜3カ年の取組方向＞

- 三河山間地域において、テレワークやワーケーションが可能な施設を整備し、受入れ環境を整えることで、新しい人の動きを三河山間地域へ誘導していく。
- 首都圏在住の方の地方暮らしへの関心の高まりを踏まえ、ふるさと回帰支援センターにおいて、移住相談の機能強化に取り組むとともに、愛知県交流居住センターを中心に都市部住民とのマッチングやなりわいづくりを支援することで、移住・定住を促進していく。
- 島の暮らしや、伝統行事など、観光スポットのみならず様々な魅力について情報発信を行うとともに、SNS等により、地域の魅力発信を担ってくれる関係人口を取り込むなど、関係人口の創出に向けた取組を推進していく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画（年度）			所管局等	
		2021	2022	2023		
山間地域の振興	東三河地域の魅力発信	○東三河スポーツツーリズムを推進するガイドリーダー育成講座の開催、Web やイベントブース出展（2回）によるPRの実施	→	○Web 等によるPRの実施	東三河総局	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 東三河地域における ・入域客数：年間2,400千人増加 ・宿泊者数：360千人増加 ・道の駅売上額：360百万円増加 ・レンタサイクル貸出件数：480件増加 (2020～2022年度) </div>				
	○伝統文化の発信 ○花祭を活かした観光振興	→	→	→	総務局	
	移住・定住の促進	○テレワーク・ワーケーションの促進のためのニーズ調査、情報発信、環境整備支援の実施	○環境整備の支援	→	→	総務局
		○ふるさと回帰支援センターにおける移住相談窓口の設置	→	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 移住相談者数：500人 (2025年度) </div>	
		○愛知県交流居住センターを中心とした都市部住民とのマッチング支援、情報発信、仕事（なりわい）づくりへの支援 ○新規起業家等のなりわい支援の実施	→	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 就業支援者数：50人 (2025年度) </div>	
関係人口の創出・拡大	○「東三河のファンの獲得」に向けた地元産品の通信販売の実証実験の実施	→	→	東三河総局		
	○通信販売サイト運営手法等の検討	○通信販売サイトの民間企業等への事業承継の検討	→		○関係人口の創出・拡大の推進	
離島の振興	関係人口の創出・移住定住の促進	○SNS等を活用した離島の魅力発信及び関係人口の創出に向けた取組の推進	→	→	総務局	